

御影北だより

令和 5 年度 12 月

神戸市立御影北小学校

<https://www.kobe-c.ed.jp/mkk-es>



悲願の日本一 ～兵庫が熱い～

校庭や公園の木々がすっかり色づき秋を感じる一方、あっという間に季節が進んできました。すでに葉が落ちて冬支度を始めている木々もあります。手袋やマフラーを着けて登校する子供たちの姿も見られます。そんな登校する子供たちに、代表委員会の子供たちが明るい声で「おはようございます。」と声をかけて『あいさつ運動』を進めてくれています。自主的に子供たちが行動する姿に寒い朝でも心があたたかくなります。

さて、先日ヴィッセル神戸がJ1リーグで優勝しました。チームの活動開始日が1995年1月17日。そうです、阪神・淡路大震災が起こった日だったのです。まさかこのような未曾有の事態になるとは誰も夢にも思いませんでした。ですから、サッカーチームとしての活動どころではありません。そのような中、選手たちが最初に取り組んだことは復興支援でした。サッカーの練習ではなく、地域への貢献がヴィッセル神戸の船出となったのです。

あれから29年。悲願の日本一を勝ち取り、名実ともに『勝利の船出』を成し遂げました。表彰式の後、選手たちはサポーターが待つ応援席にあいさつに行きました。するとそこには「神戸賛歌」の大合唱が待っていました。涙と笑顔が入り混じった選手やスタッフ、歓喜に沸くサポーターが一体となった歌声はスタジアムだけでなく神戸の人々の心に響き渡りました。



『俺達のこの街に お前が生まれたあの日 どんなことがあっても 忘れはしない
共に傷つき 共に立ち上がり これからもずっと 歩んでいこう
美しき港町 俺達は守りたい 命ある限り 神戸を愛したい』(原曲：愛の賛歌)

神戸で育っていく子供たちが、未来に向かって歩んでいけるように、これからも私達大人が最強のサポーターとして、共に歩み支えていきたいと思ひます。

さらに、今年は野球でも、阪神タイガースが見事38年ぶりの日本一に輝きました。どちらのチームにも共通する「あきらめない」という強い気持ちが、応援する私たちを感動させてくれました。

学校では、子供たちは日々学習や行事に対して一生懸命に取組み、友達と共に成長する姿をいろんな場面で見せてくれます。「あきらめない」気持ちの先には、素敵な宝物があるのです。その事を様々な体験や活動を通して、これからも伝え続けていきたいと思ひます。

冬空に響く歓声スタジアム

校長 生田 真紀